



(2,000円)

特許願(イ)

昭和48年1月7日

特許庁長官 殿

1. 発明の名称
チカニサクサニウドウタイ セイノウホウ
置換酢酸誘導体の製造法2. 発明者
オオサカシヒガシミヨシクセイドミツウ
大阪府大阪市東住吉区湯里町102

マエダ リョウヲ

前田 量三 (ほか1名)

3. 特許出願人 郵便番号 541

オオサカシヒガシミヨシクセイドミツウ
大阪府大阪市東住吉区道修町3丁目12番地

シオノギ セイイイク

(192) 塩野義製薬株式会社

ヨシトシ ナガオ

代表者 吉利一雄

4. 代理人 郵便番号 553

大阪市福島区鶯洲上2丁目47番地

塩野義製薬株式会社特許部(電話06-458-5861)

弁理士(6703) 岩崎光隆

5. 添付書類の目録

(1) 明細書

/通 方式審査

(2) 委任状

/通

(3) 願書副本

/通 48-125187

⑯ 日本国特許庁

公開特許公報

①特開昭 50-76072

④公開日 昭50(1975) 6.21

②特願昭 48-125187

③出願日 昭48(1973) 11.7

審査請求 未請求 (全7頁)

庁内整理番号 7043 44

7306 44

6855 44

6855 44

⑤日本分類

16 E431

16 E432

16 E433

30 B4

⑥Int.Cl²

C07D213/62

C07D213/81

C07D213/84

C07D215/20

C07D217/24

A61K 31/44

A61K 31/47

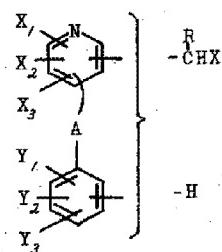
明細書

1. 発明の名称

置換酢酸誘導体の製造法

2. 特許請求の範囲

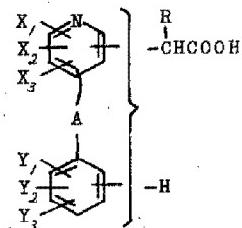
一般式



[式中、 $X_1, X_2, X_3, Y_1, Y_2, Y_3$ および A はそれぞれ水素、アルキル基、アルコキシ基、カルボキシ基、アミノ基、カルバモイル基、ニトロ基、ジアノ基、水酸基、アシルオキシ基、アシルアミノ基、トリフルオロメチル基、あるいはハロゲンを表わし、これらの置換基のうちの任意の 2 置換基が結合してピリジン環あるいはベンゼン環に結合する脂環あるいはベンゼン環を形成してもよく、 X はハロゲンを表わし、 A は酸素あるいは硫黄を表わし、]

R は水素あるいは低級アルキル基を表わす。ただし上記一般式中の $-CHX$ 基は 2 個の置換基により形成されたベンゼン環上に存在してもよい。]

で示される化合物をカルボキシ化反応に付して一般式



[式中、 $X_1, X_2, X_3, Y_1, Y_2, Y_3, A$ および R は前記と同意義を表わす。]

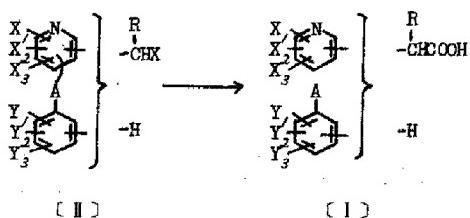
で示される化合物を得ることを特徴とする置換酢酸誘導体の製造法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は置換酢酸誘導体の製造法に関し、さらに詳しくは優れた抗炎症作用(抗リウマチ作用も含む)および鎮痛作用を示し、医薬またはその合成中間体として有用な置換酢酸誘導体の製造法に

関する。

本発明方法の要旨は次式によつて示される。



〔式中、 X_1 、 X_2 、 X_3 、 Y_1 、 Y_2 および Y_3 はそれぞれ水素、アルキル基、アルコキシ基、カルボキシ基、アミノ基、カルバモイル基、ニトロ基、シアノ基、水酸基、アシルオキシ基、アシルアミノ基、トリフルオロメチル基あるいはハロゲンを表わし、これらの置換基のうちの任意の2置換基が結合してビリジン環あるいはベンゼン環に縮合してもよく、 X はハロゲンを表わし、 A は酸素あるいは硫黄をあらわし、 R は水素あるいは低級アルキル基を表わす。ただし、上記一般式 $-CHX$ で表わされる置換基は2個の置換基により形成されたベンゼン環上に存在し

てもよい。〕

本発明方法は一般式〔Ⅱ〕で示されるハロゲナルキル誘導体をカルボキシル化反応に付して一般式〔Ⅰ〕で示される対応する置換酢酸誘導体を得ることを目的とする。

本発明方法の原料化合物〔Ⅱ〕は対応するアルコール化合物をハロゲン化水素酸、ハロゲン化チオニルあるいはハロゲン化リンによって常法通りハロゲン化することにより得られる。

この原料化合物〔Ⅱ〕は一般式において示されるごとくアルキル基（例えば、メチル、エチル、イソプロピル、イソブチル）、アルコキシ基（例えば、メトキシ、エトキシ、プロポキシ、イソブロキシ）、カルボキシ基、カルバモイル基、ニトロ基、アミノ基、シアノ基、水酸基、アシルオキシ基（例えば、アセチルオキシ、プロピオニルオキシ、ブチリルオキシ）、アシルアミノ基（例えば、アルキルアシルアミノ、無機炭酸アシルアミノ、アリールアシルアミノ）、トリフルオロメチル基あるいはハロゲン（例えば、塩素、臭素）か

ら選ばれる同一または相異なる1～3個の置換基によつて各々ベンゼン環およびビリジン環が置換されていてもよい有機ハロゲン化合物である。

本発明方法の実施においては通常ベンジル型ハロゲン化物に対して用いられるすべてのカルボキシル化方法を用い得るが、その2、3を例示すると次のとおりである。

まず一例としてはハロゲナルキル誘導体〔Ⅱ〕のハロゲン原子をシアノ基に置換する。この反応は不活性溶媒（例えば、ビリジン、ジメチルホルムアミド、ジメチルスルホキシド、ノーメチル-2-ピロリドン、水、メタノール、エタノール）中シアノ化試剤（例えば、シアノ化第一銅、シアノ化ナトリウム、シアノ化カリウム、ベンジルトリメチルアンモニウムシアナイト）を使用して通常加熱下に実施される。なお、ヨウ化ナトリウム、ヨウ素-ヨウ化カリウムを加えて反応の促進を図つてもよい。次いで得られたシアノアルキル誘導体のシアノ基をカルボキシル基に変換するため加水分解に付す。この加水分解は常法に従つて行え

ばよく、酸性条件下あるいは塩基性条件下のいずれでおこなつてもよい。酸としては塩酸、硫酸、硝酸、またはこれらと有機酸（例えば、酢酸）などとの混合物を用いることができ、塩基としては水酸化アルカリ、炭酸アルカリなどが用いられ、水あるいは含水溶媒の存在下で加熱することにより実施される。

さらに他の方法としてはグリニヤール試薬をカルボキシル化する方法がある。すなわち、ハロゲン化アルキル誘導体〔Ⅱ〕に常法どおり金属マグネシウムを反応させてグリニヤール試薬をつくり、これに冷却下二酸化炭素を導入するかまたは固体炭酸と反応させ次いで加水分解に付すことにより目的とする置換酢酸誘導体が得られる。グリニヤール試薬の収率向上の為窒素気流中で反応を行うこと、ヨウドあるいは臭化エチルなどの添加剤を加えること、その他通常のグリニヤール試薬によるカルボン酸合成の反応条件は本発明方法実施の際にも同様に用い得る。

また、アルカリ金属化合物と炭酸によるカルボ

ン酸の合成法も利用できる。一般にはハロゲノアルキル誘導体〔Ⅱ〕にブチルリチウムを反応させてリチウム化合物とした後これに二酸化炭素を導入することにより目的化合物〔I〕を得る。この方法においてブチルリチウムの代りにプロムベンゼントリチウムまたは砂状ナトリウムアマルガムを用い得ること、二酸化炭素の代りに固体炭酸を用い得ることなども通常のアルカリ金属化合物によるカルボン酸の合成と同様である。

なおこれらのカルボキシル化反応中に変化を受けるピリジン環あるいはベンゼン環上の置換基はカルボキシル化反応前に適当な保護基で保護しておき反応終了後保護基をはずすこと、あるいは反応中に加水分解等の変化を受けた置換基を反応終了後再び修飾してもとの置換基にもどすことなども必要に応じて考慮されてよい。

本発明方法においては上記されたカルボキシル化反応に限定されるものではなく、一般式〔Ⅱ〕で示される化合物をカルボキシル化して置換酢酸誘導体〔I〕にする方法をすべて包含するものであ

る。かくして得られた置換酢酸誘導体〔I〕はさらに分離、精製あるいは製剤化の必要に応じて、適当なアルカリ金属塩（例えば、ナトリウム、カリウム）、アルカリ土金属塩（例えば、カルシウム、マグネシウム、バリウム）、その他アルミニウム塩などに常法に従つて変換することが可能である。

本発明方法の目的化合物である置換酢酸誘導体〔I〕およびその塩類は優れた抗炎症作用（抗リウマチ作用を含む）または鎮痛作用を示し、医薬またはその合成中間体として有用な化合物である。

以下実施例において本発明方法の態様を示す。

実施例1

2-フエノキシ-5-クロロメチルピリジン 1.38g をジメチルスルホキシド 10ml に溶解し、55°C でかきまぜながらシアン化ナトリウムのジメチルスルホキシド溶液 (4.6g / 4.5ml) を加え 3 分間反応させる。冷却後氷水を加え、エーテルで抽出し抽出液を水洗後炭酸カリウムで乾燥しエーテルを留去すると油状残渣 1.27g を

得る。アルミナカラムクロマトに付し、50%ベニゼン/ヘキサン溶出部より 1.15g の 6-フエノキシ-3-ピリジンアセトニトリルを得る。

$\text{IR}_{\text{max}}^{\text{KBr}} \text{cm}^{-1}$ 2240.

本品 2.0g に 20% 水酸化カリウム水溶液 10ml およびエタノール 10ml を加え水浴上で 1 時間還流する。エタノールを留去後水を加えて希釈し、塩酸で酸性とした後重炭酸ナトリウムでアルカリ性とし、クロロホルムおよびエーテルで洗滌後活性炭で処理する。次いで塩酸で pH 4 に調整し塩化ナトリウムで飽和しエーテルで抽出する。抽出液を水洗、乾燥後エーテルを留去すると 6-フエノキシ-3-ピリジル酢酸 1.75g を得る。エーテル/ヘキサンより再結晶すると mp 84~85°C を示す。 $\text{IR}_{\text{max}}^{\text{Nujol}} \text{cm}^{-1}$ 2500, 1910, 1720.

実施例2

5-フエノキシ-3-(α -ハイドロキシエチル)ピリジン 5.2g を四塩化炭素 2.0ml に溶解し -2~0°C で三臭化リンの四塩化炭素溶液 (2.1g / 4ml) に 2 分を要して滴下した後さらに

20 分間同温度で反応させ、次いで室温で一夜放置する。反応液を氷水中に投入し希炭酸ナトリウム水溶液で中和した後クロロホルムで抽出する。抽出液を乾燥後クロロホルムを留去し油状残渣として 5-フエノキシ-3-(α -ブロモエチル)ピリジン 6.5g を得る。本品は精製することなく次工程に用いる。

本品 1.3g を新らたに調製したテトラヒドロフラン 10ml に溶解し、窒素気流中かきまぜながら -30°C でブチルリチウム (1.46 mmol) 3.3 ml を加え 10 分間反応させた後、乾燥炭酸ガスを 2 時間半導入する。冷却下に塩酸を加え複合体を分解した後テトラヒドロフランを留去し、残渣をエーテルで抽出する。抽出液を水洗、乾燥後エーテルを留去し、残渣に希重炭酸ナトリウム水溶液を加えて溶解しクロロホルムおよびエーテルで洗滌する。活性炭で処理後塩酸性としエーテルで抽出し、抽出液を水洗、乾燥後エーテルを留去する。酢酸エチルより再結晶し mp 135~135.5°C の 2-(5-フエノキシ-3-ピリジル)プロピオ

特開 昭50-76072(4)

洗、乾燥後エーテルを留去し、 $\eta / 3.0 \sim 1.34$
 $^{\circ}\text{C}$ の2-(5-フエノキシ-3-(α -クロロエチル)ビ
リジンを用いて同様の結果を得る。

IR ν_{max} cm⁻¹ 2400, 1900, 1725.

実施例3

金属マグネシウム4.5gを空素気流中かきま
せながらテトラヒドロフラン2mlに懸濁し、臭化
エチル0.2mlを加える。この反応液に5-フエノ
キシ-3-(α -ブロモエチル)ビリジン1.48
gと臭化エチルのテトラヒドロフラン溶液(0.8
ml/1.5ml)を15分を要して滴下し、次いで1
時間還流する。さらに若干のマグネシウム残渣を
認めるので臭化エチル0.2mlを加え30分還流す
る。次いで-15°Cに冷却して乾燥炭酸ガスを3
時間導入する。10%塩酸で複合体を分解し減圧
でテトラヒドロフランを留去し残渣をエーテルで
抽出。抽出液を水洗乾燥後エーテルを留去し残渣
を希重炭酸ナトリウム水溶液に溶解し、クロロホ
ルム次いでエーテルで洗滌する。活性炭で処理後
塩酸でpH4に調整後エーテルで抽出。抽出液を水

実施例4

5-フエノキシ-3-(α -ブロモエチル)ビ
リジン2.78gをジメチルスルホキシド2.0mlに
溶解し、55°Cでかきませながらシアノ化ナトリ
ウムのジメチルスルホキシド溶液(53.0g/4
ml)を加え2時間反応させる。冷却後氷水を加え
エーテルで抽出。抽出液を水洗、乾燥後エーテル
を留去し、油状残渣2.0gとして5-フエノキシ
-3-(α -シアノエチル)ビリジンを得る。

IR ν_{CCl_4} cm⁻¹ 2250.

本品は精製することなく次工程に用いる。

本品2.9を20%水酸化カリウム水溶液6.0
mlおよびエタノール50mlの混液に溶解し、6時
間還流する。エタノールを留去後水を加えて希釈
し、塩酸で酸性とした後重炭酸ナトリウムでアル
カリ性としてクロロホルムおよびエーテルで洗滌

後活性炭で処理する。塩酸でpH4に調整し析出する
沈殿を汎取、水洗、乾燥すると $\eta / 3.1 \sim 1.34$
 $^{\circ}\text{C}$ の2-(5-フエノキシ-3-ビリジル)プロ
ピオン酸を得る。酢酸エチルより再結晶すると、
 $\eta / 3.5 \sim 1.35.5^{\circ}\text{C}$ の結晶を得る。

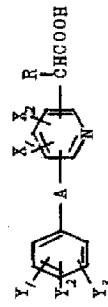
実施例5

実施例1と同様に反応を行い、2-(3-クロ
ロメチルフエノキシ)ビリジンから3-(2-ビ
リジルオキシ)フェニル酢酸、 $\eta / 1.0 \sim 1.11$
 $^{\circ}\text{C}$ を得る。

実施例6-9.5

実施例1と同様に反応を行い、下記の化合物を得る。なお下記表中で用いられる略号は下記の意
味を表わす。

Me: メチル基	Met: メトキシ基
Bt: エチル基	iso-Bu: イソブチル基
Ac: アセチル基	An: アニリノ基
Ca: カルシウム塩	Al: アルミニウム複合体
d: 分解点	



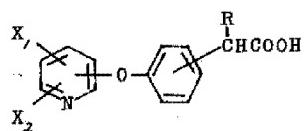
実施例	Rの位置	R-COOH	R-A-	X ₁	X ₂	X ₃	Y ₁	Y ₂	Y ₃	^{mp} (°C)
3.6	4	Me 2-0	H	H	<-OH	H	H	H	H	Ca / 87~187
3.7	4	Me 2-0	H	H	<-OAc	H	H	H	H	Ca / 325~1335
3.8	3	Me 6-0	H	H	<-OR	H	H	H	H	Ca / 45
3.9	3	Me 6-0	H	H	<-OR	H	H	H	H	Ca / 205
4.0	4	Me 2-0	H	H	<-NO ₂	H	H	H	H	115~16d
4.1	4	Me 2-0	H	H	<-NHL ₂	H	H	H	H	132~133d
4.2	4	Me 2-0	H	H	<-NHAc	H	H	H	H	142~143d
4.3	4	Me 2-0	H	H	※	H	H	H	H	136~137d
4.4	4	Me 2-0	H	H	※	H	H	H	H	206~208d
4.5	3	Me 6-0	H	H	<-Br	H	H	H	H	119~120
4.6	4	Me 2-0	H	H	3,4-ベンジ	H	H	H	H	138~139d
4.7	3	Me 6-0	H	H	<-CN	H	H	H	H	120~121
4.8	3	Me 6-0	<-Me	H	H	H	H	H	H	135~136
4.9	3	Me 6-0	2-Me	H	H	H	H	H	H	92~93
5.0	3	Me 6-0	H	H	2-Me	3-Me	H	H	H	115~116
5.1	3	Me 6-0	H	H	2-CF ₃	H	H	H	H	94~97
5.2	3	Me 6-0	H	H	2-Me	H	H	H	H	6.5~67
5.3	3	Me 6-0	H	H	3-Me	H	H	H	H	81~82
5.4	3	Me 6-0	H	H	3-Me	5-Me	H	H	H	12.0~12.1
5.5	3	Me 6-0	H	H	3-Me	4-Me	H	H	H	9.0~9.1
5.6	3	Me 4-0	H	H	H	H	H	H	H	14.5~14.6
5.7	3	Me 6-0	H	H	<-iBu	H	H	H	H	77~78
5.8	4	Me 2-0	H	H	2-Me	3-Me	H	H	H	8.6~87d
5.9	3	H 6-0	H	H	2-Me	3-Me	H	H	H	120~121
6.0	3	Me 6-0	5-Me	H	H	H	H	H	H	107~108
6.1	3	Me 6-0	H	H	2-Me	5-Me	H	H	H	Ca / 95d
6.2	3	Me 6-0	H	H	2-Me	4-Me	H	H	H	Ca / 89d
6.3	3	Me 6-0	H	H	2-Me	5-Me	H	H	H	20.2d
6.4	4	Me 2-0	H	H	3-Me	4-Me	H	H	H	12.3~12.4d
6.5	4	Me 2-0	H	H	3-Me	5-Me	H	H	H	10.3~10.4d
6.6	3	Me 6-0	H	H	3-Me	5-Me	H	H	H	12.8~12.9
6.7	3	Me 6-0	H	H	2-Me	4-Me	5-Me	H	H	11.3~11.4

実施例	Rの位置	R-COOH	R-A-	X ₁	X ₂	X ₃	Y ₁	Y ₂	Y ₃	^{mp} (°C)
6	4	Me 2-0	H	H	<-OH	H	H	H	H	9.3~9.4d
7	4	Me 2-0	H	H	<-OAc	H	H	H	H	15.2~15.3d
8	4	Me 2-0	H	H	<-OR	H	H	H	H	11.9~12.0d
9	4	Me 2-0	H	H	<-NHAc	H	H	H	H	9.8~9.9d
10	4	Me 2-0	H	H	136~137d	H	H	H	H	12.3~12.4d
11	4	Me 2-0	H	H	206~208d	H	H	H	H	13.3~13.4d
12	4	Me 2-0	H	H	142~143d	H	H	H	H	10.2.5~10.8.5d
13	4	Me 2-0	H	H	84~85d	H	H	H	H	8.4~8.5d
14	3	Me 2-0	H	H	2-CF ₃	H	H	H	H	11.0~11.1
15	3	Me 2-0	H	H	4-CF ₃	H	H	H	H	9.4~9.5
16	3	Me 6-0	H	H	6-0	H	H	H	H	9.2~9.3
17	3	Me 6-0	H	H	6-S	H	H	H	H	11.4~11.5
18	2	Me 6-0	H	H	6-O	H	H	H	H	Ca / 3.5~13.6
19	2	Me 6-0	H	H	6-CF ₃	H	H	H	H	Ca / 80~81d
20	2	Me 2-S	H	H	6-CF ₃	H	H	H	H	Ab 6.4~6.5
21	2	Me 2-O	H	H	6-Me	H	H	H	H	12.9~13.0d
22	4	Me 2-O	H	H	4-Me	H	H	H	H	10.1~10.2d
23	3	Me 6-S	H	H	6-S	H	H	H	H	11.45~11.55
24	3	Me 6-O	H	H	4-Me	H	H	H	H	9.8~9.9
25	4	Me 2-S	H	H	4-Me	H	H	H	H	Ca / 4.0~14.1
26	3	Me 6-O	H	H	4-Me	H	H	H	H	Ca / 5.5
27	4	Et 2-O	H	H	4-CF ₃	H	H	H	H	9.2~9.3
28	3	H 6-O	H	H	4-CF ₃	H	H	H	H	11.6~11.7
29	3	Me 6-O	H	H	3-CF ₃	H	H	H	H	10.6~10.7
30	4	Me 2-O	H	H	4-CN	H	H	H	H	10.5~10.6d
31	3	Et 6-O	H	H	4-CN	H	H	H	H	Ab 2.3d
32	4	Me 2-O	H	H	4-COOH	H	H	H	H	1.54~1.56d
33	4	Me 2-O	H	H	3-CN ₃	H	H	H	H	Ca / 5.5~15.7
34	3	Me 6-S	H	H	4-CF ₃	H	H	H	H	Ca / 5.0
35	4	Me 2-O	H	H	4-COOH ₂	H	H	H	H	16.0~16.2(殆地) 20.0~20.1

実施例	R	-CHCOOH	R-A-	X ₁	X ₂	Y ₁	Y ₂	Y ₃	mp(°C)
6.8	3	Me	6-0	H	H	3-Me	4-Me	5-Me	155~156
6.9	3	Me	6-0	H	H	2-Me	4-Me	6-Me	135~136
7.0	3	Me	6-0	H	H	3,4-(CH ₂) ₄ -			Ca / 69d
7.1	4	Me	2-0	H	H	2-Me	3-Me	5-Me	125~126d
7.2	4	Me	2-0	H	H	3-Me	4-Me	5-Me	126~127d
7.3	3	Me	6-0	H	H	2,3-(CH ₂) ₄ -			Ca / 65~66d
7.4	3	Me	6-0	H	H	3,4-ベンジ			120,5~121.5
7.5	3	Me	6-0	H	H	2,3-ベンジ			135~132
7.6	3	Me	6-0	H	H	5-Me			144~145
7.7	4	Me	2-0	5,6-ベンジ	H	H			Ca / 6~21/7
7.8	3	Me	6-0	4,5-ベンジ	H	H			122~123
7.9	3	Me	6-0	4,5-(CH ₂) ₄ -	H	H			155~152
8.0	3	Me	6-0	H	H	3,4-(CH ₂) ₃ -			12,2.5~123.5
8.1	3	Me	6-0	H	H	3-Me			69.5~70.5
8.2	3	Me	6-0	2-Me	4-Me	H	H		Ca / 6d

*' : 4-NHCOOEt *² : 4-NHCOAn

(以下余白)



理し、2-[6-(2-ピリジルオキシ)-2-ナフチル]プロピオン酸を得る。mp 197~198°C。

特許出願人 塩野義製薬株式会社

代理人 弁理士 岩崎 光隆

実施例	X ₁	X ₂	フェノキシ基の位置	R	mp(°C)
8.3	H	H	2	3	Me 76~77
8.4	H	H	2	3	H 110~111
8.5	H	H	2	4	Me 129~130
8.6	5-CN	H	2	4	Me 198~200
8.7	5-CO NH ₂	H	2	4	Me 211~212
8.8	H	H	3	4	Me 130~131
8.9	H	H	4	4	Me 180~181
9.0	3,4-(CH ₂) ₄ -	2	4	Me	166~167
9.1	3,4-ベンジ	2	4	Me	145~147
9.2	3-Me 4-Me	2	4	Me	155.6~156
9.3	4-Me 5-Me	2	4	Me	142~143
9.4	4-Me H	2	4	Me	123~124
9.5	6-Me H	2	4	Me	Ca 27.3~27.5

実施例 9.6

2-(α-ブロモエチル)-6-(2-ピリジルオキシ)ナフタリンを実施例1と同様に反応処理し、

6. 前記以外の発明者

キンクダシ ヒガノオカチヨウ
大阪府岸和田市東ヶ丘町508の55
ヒロ セ カソミ
広瀬 勝己

手続補正書

(意見書に代えて)

9字削除

昭和48年12月6日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示 昭和48年特許願第125187号

2. 発明の名称

置換酢酸誘導体の製造法

3. 補正する者

事件との関係 特許出願人

住所 大阪府大阪市東区道修町3丁目12番地

シオノギヤイイイカ

名称 (192) 塩野義製薬株式会社

ヨシノグン

代表者 吉利一雄

4. 代理人

住所 大阪市福島区鶴洲上2丁目47番地

塩野義製薬株式会社 特許部

(電話 06-458-5861)

氏名 弁理士 (6703) 岩崎光隆

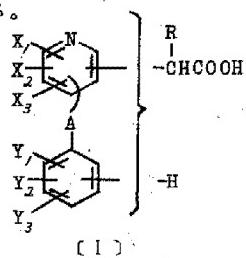
5. 拒絶理由通知の日付 昭和一年一月一日 (発送日)
行削除

5. 補正の対象

明細書の発明の詳細な説明の欄

6. 補正の内容

(1) 明細書第3頁の化学構造式〔I〕を下記のように訂正する。



それは水和物であり、実施例25では水和物、
実施例34および39では水和物、実施例63、
70、73、77および82では水和物、実
施例18、19、33、37、61および62で
は水和物であり、実施例36および38では
水和物である。」

(2) 同書第13頁下から6行目の「表わす。」を
「表わし、-A-欄において例えば2-Oはピリジン
環の2位がエーテル結合をしていることを表わし、
X1, X2, Y1, Y2 およびY3の各々の欄において例え
ば4-COは母核の4位をクロルが置換していいるこ
とを表わす。以下の実施例においても同様である。」
に訂正する。

以上

(3) 同書第16頁末行の次に下記の文を追加する。
「注：上表におけるカルシウム塩は実施例26の

昭 55 6.14 発行

特許法第17条の2による補正の掲載
昭和48年特許願第 125187号(特開昭
50-76072号 昭和50年6月21日
発行公開特許公報 50-7611号掲載)につ
いては特許法第17条の2による補正があったので
下記の通り掲載する。

Int.CP.	識別 記号	序内整理番号
0070213/81		7138 4c
213/84		7138 4c
215/20		7306 4c
217/24		7306 4c
II A61K 31/44		6617 4c
31/47		6617 4c

5.補正の対象

明細書の「特許請求の範囲」および「発明の詳
細な説明」の備。

6.補正の内容

- (1)特許請求の範囲を別紙のとおり訂正する。
- (2)明細書3頁下から8行、6行、6~5行、4
行および3行の「あるいは」を「または」に訂正
する。
- (3)同書4頁8行および末行の「あるいは」を「
または」に訂正する。
- (4)同書2頁11行および13行の「あるいは」
を「または」に訂正する。

以上

手続補正書

+意見書に代えで+

9字削除

昭和55年3月12日

特許庁長官 殿

1.事件の表示 昭和48年特許願第 125187号

2.発明の名称

置換酢酸誘導体の製造法

3.補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 大阪府大阪市東区道修町3丁目12番地

名称 (192) 塩野義製薬株式会社

代表者 吉利一雄

4.代理人

住所 大阪市福島区鷺洲5丁目12番4号55.3.14
塩野義製薬株式会社特許部

(電話06-458-5861)

氏名 弁理士(6703) 岩崎光隆

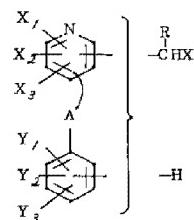
5.拒絶理由通知の日付 昭和一年一月一日(発送日)

/行印跡

（別紙）

2.特許請求の範囲

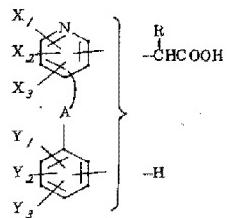
一般式



〔式中、X₁、X₂、X₃、Y₁、Y₂およびY₃はそれぞれ
水素、アルキル基、アルコキシ基、カルボキシル
基、アミノ基、カルバモイル基、ニトロ基、シア
ノ基、水酸基、アシルオキシ基、アシルアミノ基、
トリフルオロメチル基、またはハロゲンを表わし、
これらの置換基のうちの任意の2置換基が結合し
てピリジン環またはベンゼン環に結合する脂環ま
たはベンゼン環を形成してもよく、Xはハロゲン
を表わし、Aは酸素または硫黄を表わし、Rは水
素または低級アルキル基を表わす。ただし上記一

昭 55 6.14

式中の $-CHX$ 基は 2 個の置換基により形成された
ベンゼン環上に存在してもよい。)
で示される化合物をカルボキシル化反応に付して
一般式



(式中、 $X_1, X_2, X_3, Y_1, Y_2, Y_3, A$ および R は
前記と同意義を表わす。)
で示される化合物を得ることを特徴とする置換酢
酸誘導体の製造法。

(以上)

- 4 -

2
(64)